

2015 年度 獨協医科大学病院 麻酔科専門医研修プログラム

麻酔科専門医研修プログラム名	獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム	
連絡先	TEL	0282-86-1111 (内線 2771)
	FAX	0282-86-0478
	e-mail	shigeki@dokkyomed.ac.jp
	担当者名	山口重樹
プログラム責任者 氏名	山口重樹	
研修プログラム 病院群 * 病院群に所属する全施設名をご記入ください。	責任基幹施設	獨協医科大学病院
	基幹研修施設	獨協医科大学日光医療センター 那須赤十字病院 佐野厚生総合病院
	関連研修施設	なし
プログラムの概要と特徴	<p>獨協医科大学病院および基幹研修施設、関連研修施設において、麻酔科専攻医が整備指針に定められた麻酔科専門医研修プログラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術、さらに、患者・家族および全医療スタッフから信頼される麻酔科専門医を育成する。本プログラムの特徴は以下の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 多彩かつ豊富な手術症例を通じて、医療安全に徹した麻酔の知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。 2) ペインクリニック、東洋医学、緩和ケア等の痛みの診療を通じて、全人的医療を目指したコミュニケーション能力の高い麻酔科医を育成する。 3) 社会人大学院制度を通じて、研究マインドの高い麻酔科医を育成する。 4) 学会参加、ボランティア活動、留学等の海外での活動を通じて、国際色豊かな麻酔科医を育成できる。 5) 女性医師支援センターを通じて、女性医師にとって最適な職場環境を提供する。 	
プログラムの運営方針	<ol style="list-style-type: none"> 1) 責任基幹施設、基幹研修施設、関連研修施設の何れにおいても研修を開始できる 2) 麻酔科専門医研修プログラムの到達目標を達成するために、研修プログラム病院群の5施設内でローテーションを行う。 3) ローテーションは、一定期間の施設間の移動及び施設ごとと非常勤医師制度(パート勤務)を利用して行う。 4) 研修期間中にペインクリニック、東洋医学、緩和ケア等の痛みの診療に参加し、痛み関連の専門医も目指す。 5) 集中治療や救急医療を希望する者は、責任基幹施設の救命救急センターで研修することができる。 	

2015 年度 獨協医科大学病院 麻酔科専門医研修プログラム

1. プログラムの概要と特徴

本プログラムは、獨協医科大学病院および基幹研修施設^(注1)において、麻酔科専攻医が整備指針に定められた麻酔科専門医研修プログラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術、患者・家族および全医療スタッフから信頼される麻酔科専門医を育成するものである。本プログラムの特徴は以下の5点である。

- 1) 多彩かつ豊富な手術症例を通じて、医療安全と患者の早期回復を目指した麻酔の知識と技術を兼ね備えた麻酔科専門医を育成する。
- 2) ペインクリニック、東洋医学、緩和ケア等の痛みの診療を通じて、全人的医療を目指したコミュニケーション能力の高い麻酔科医を育成する。
- 3) 獨協医科大学大学院の社会人大学院制度を通じて、研究マインドの高い麻酔科医を育成する。
- 4) 学会参加、ボランティア活動、留学等の海外での活動を通じて、国際色豊かな麻酔科医を育成できる。
- 5) 女性医師支援センターを通じて、女性医師にとって最適な職場環境を提供する。

注 1: 獨協医科大学日光医療センター（栃木県日光市）、那須赤十字病院（栃木県那須塩原市）、佐野厚生総合病院（栃木県佐野市）

2. プログラムの運営方針

- 責任基幹施設、基幹研修施設、関連研修施設の何れにおいても研修を開始できる
- 麻酔科専門医研修プログラムの到達目標を達成するために、研修プログラム病院群の5施設内でローテーションを行う。
- 病院群内のローテーションは、一定期間の施設間の移動及び施設ごとの非常勤医師制度（パート勤務）を利用して行う。
- 研修期間中にペインクリニック、東洋医学、緩和ケア等の痛みの診療に参加し、麻酔管理のみならず痛み関連の専門医も目指す。
- 集中治療や救急医療を希望する専攻医は、責任基幹施設の救命救急センターで研修することができる。

研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

<研修実施計画例>

以下の研修計画はあくまでも例であり、個々の希望を十分に配慮する。

獨協医科大学病院で研修開始の場合

- ・ 獨協医科大学病院単独コース A（後期研修および助教にて研修）
- ・ 獨協医科大学病院単独コース B（社会人大学院にて研修）
- ・ 獨協医大病院及び基幹研修施設コース（最低 2 年獨協医科大学病院にて研修）

獨協医科大学日光医療センターで研修開始の場合

- ・ 獨協医科大学日光医療センター及び責任基幹施設コース（最低 1 年責任基幹施設にて研修）
- ・ 獨協医科大学日光医療センター及び責任基幹施設・基幹研修施設コース（最低 1 年責任基幹施設にて研修）

那須赤十字病院で研修スタート

- ・ 那須赤十字病院及び責任基幹施設コース（最低 1 年責任基幹施設にて研修）
- ・ 那須赤十字病院及び責任基幹施設・基幹研修施設コース（最低 1 年責任基幹施設にて研修）

佐野厚生総合病院で研修スタート

- ・ 佐野厚生総合病院及び責任基幹施設コース（最低 1 年責任基幹施設にて研修）
- ・ 佐野厚生総合病院及び責任基幹施設・基幹研修施設コース（最低 1 年責任基幹施設にて研修）

3. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

1) 責任基幹施設

獨協医科大学病院

獨協医科大学病院麻酔科 HP URL <http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/anes/index.html>



施設の特徴

- ① 周産期医療，移植医療，ハートセンターなどの多彩な手術症例
- ② 豊富な手術件数
- ③ 充実した麻酔指導医・専門医による指導・教育
- ④ ペインクリニック，東洋医学，緩和ケアなどの痛み医療の充実
- ⑤ 社会人大学院制の導入
- ⑥ 海外の学会参加，留学，医療ボランティアなどの支援
- ⑦ 基礎医学教室との共同研究制度
- ⑧ 国内留学制度
- ⑨ 救命救急センターへの出向制度
- ⑩ 定期的な著明な先生による教室内セミナー開催（月 1 回）
- ⑪ ペインクリニック地方会（年 1 回），緩和ケア研修会（年 1 回），東洋医学地方会（年複数回），がん医療に携わる医師のコミュニケーション技術研修会（年 1 回）等の研修会開催

プログラム責任者：山口重樹

（麻酔指導医，ペインクリニック専門医，蘇生法指導医，緩和ケア暫定指導医，
医学博士） shigeki@dokkyomed.ac.jp

指導医：濱口眞輔（ペインクリニック専門医，東洋医学専門医，医学博士）

永尾 勝（ペインクリニック専門医，医学博士）

木村嘉之（ペインクリニック専門医，医学博士）

池田知史（ペインクリニック専門医，医学博士）

高薄敏史（ペインクリニック専門医，医学博士）

篠崎未緒（ペインクリニック専門医，医学博士）

藤井宏一 (ペインクリニック専門医, 医学博士)
石川和由 (ペインクリニック専門医, 医学博士)
専門医: 古川直樹 (ペインクリニック専門医, 医学博士)
大谷太郎 (ペインクリニック専門医, 医学博士)

麻酔科認定病院番号: 117

麻酔科管理症例 6,292 症例

	症例数
小児 (6 歳未満) の麻酔	392
帝王切開術の麻酔	290
心臓血管手術の麻酔	386
胸部外科手術の麻酔	282
脳神経外科手術の麻酔	669

2) 基幹研修施設

A. 日光医療センター

獨協医科大学日光医療センターHP URL <http://www.dokkyomed.ac.jp/nmc.html>



施設の特徴

- ① 世界遺産「日光、近隣の医療施設
- ② 観光医学への積極参加
- ③ 地域医療 (へき地医療) への積極参加
- ④ ペインクリニック外来あり

研修実施責任者: 緑川由紀夫 (麻酔指導医, ペインクリニック専門医, 医学博士)

mido@dokkyomed.ac.jp

専門医: 橋本智貴 (ペインクリニック専門医, 医学博士)

麻酔科認定病院番号: 1408

麻酔科管理症例 1,406 症例

	症例数	本プログラム症例数
小児（6歳未満）の麻酔	0	0
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔	187	100
胸部外科手術の麻酔	0	0
脳神経外科手術の麻酔	0	0

B. 那須赤十字病院

那須赤十字病院 HP URL <http://www.nasu.jrc.or.jp/>



施設の特徴

- ① 栃木県の県北地区の拠点病院
- ② 集中治療室あり
- ③ 緩和ケア病棟あり
- ④ ペインクリニック外来あり
- ⑤ 救急医療あり
- ⑥ 臨床研修医指導施設

研修実施責任者：柿沼宏幸（麻酔専門医，ペインクリニック専門医）

h.kakinuma@nasu.jrc.or.jp

指導医：北島敏光（ペインクリニック専門医，東洋医学専門医，医学博士）

専門医：田中禎一（医学博士）

麻酔科認定病院番号：565

麻酔科管理症例 2,216 症例

	症例数	本プログラム症例数
小児（6歳未満）の麻酔	81	50
帝王切開術の麻酔	14	10
心臓血管手術の麻酔	0	0
胸部外科手術の麻酔	56	50
脳神経外科手術の麻酔	82	50

C. 佐野厚生総合病院

佐野厚生総合病院 HP URL <http://jasanoko.or.jp/>



施設の特徴

- ① 栃木県の県南地区の拠点病院
- ② がん連携拠点病院
- ③ ペインクリニック外来あり
- ④ 農村医学あり
- ⑤ 臨床研修医指導施設

研修実施責任者：小林俊哉（麻酔指導医，ペインクリニック専門医，医学博士）
masuika@jasanoko.or.jp

指導医：渡辺啓介（ペインクリニック専門医，医学博士）

専門医：渡辺正嗣（ペインクリニック専門医，医学博士）

麻酔科認定病院番号：627

麻酔科管理症例 2,020 症例

	症例数	本プログラム症例数
小児（6歳未満）の麻酔	25	25

帝王切開術の麻酔	67	50
心臓血管手術の麻酔	0	0
胸部外科手術の麻酔	45	40
脳神経外科手術の麻酔	79	50

本プログラム全体の前年度症例合計

麻酔科管理症例 11,934 症例

	症例数	本プログラム症例数
小児（6歳未満）の麻酔	498	375
帝王切開術の麻酔	371	260
心臓血管手術の麻酔	573	400
胸部外科手術の麻酔	383	350
脳神経外科手術の麻酔	830	600

4. 募集定員

14名（獨協医科大学 10名，獨協医科大学日光医療センター1名，那須赤十字病院 1名，佐野厚生総合病院 2名）

5. プログラム責任者 問い合わせ先

獨協医科大学病院 麻酔部

山口重樹 診療部長

栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

TEL：0282-86-1111（内線：2771） FAX：0282-86-0478

E-mail：shigeki@dokkyomed.ac.jp

6. 本プログラムの研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標 1 基本知識

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

1) 総論：

- a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
- b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。

2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。

- a) 自律神経系
- b) 中枢神経系
- c) 神経筋接合部
- d) 呼吸
- e) 循環
- f) 肝臓
- g) 腎臓
- h) 酸塩基平衡，電解質
- i) 栄養

3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上的効用と影響について理解している。

- a) 吸入麻酔薬
- b) 静脈麻酔薬
- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬

4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる

- a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
- b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
- c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
- d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践

ができる。

- e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
- f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
 - a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 成人心臓手術
 - e) 血管外科
 - f) 小児外科
 - g) 小児心臓外科
 - h) 高齢者の手術
 - i) 脳神経外科
 - j) 整形外科
 - k) 外傷患者
 - l) 泌尿器科
 - m) 産婦人科
 - n) 眼科
 - o) 耳鼻咽喉科
 - p) レーザー手術
 - q) 口腔外科
 - r) 臓器移植
 - s) 手術室以外での麻酔
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。
- 8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。
- 9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標 2 診療技術

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し、臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について、定められたコース目標に到達している。

- a) 血管確保・血液採取
- b) 気道管理
- c) モニタリング
- d) 治療手技
- e) 心肺蘇生法
- f) 麻酔器点検および使用
- g) 脊髄くも膜下麻酔
- h) 鎮痛法および鎮静薬
- i) 感染予防

目標 3 マネジメント

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで、患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して、適切に対処できる技術、判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして、他科の医師、他職種を巻き込み、統率力をもって、周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 医療倫理, 医療安全

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに on the job training 環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5 生涯教育

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

① 経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。ただし, 帝王切開手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術に関しては, 一症例の担当医は 1 人, 小児と心臓血管手術については一症例の担当医は 2 人までとする。

- ・小児 (6 歳未満) の麻酔 25 症例
- ・帝王切開術の麻酔 10 症例
- ・心臓血管外科の麻酔 25 症例
(胸部大動脈手術を含む)
- ・胸部外科手術の麻酔 25 症例
- ・脳神経外科手術の麻酔 25 症例

7. 各施設における到達目標と評価項目

各施設における研修カリキュラムに沿って, 各参加施設において, それぞれの専攻医に対し年次毎の指導を行い, その結果を別表の到達目標評価表を用いて到達目標の達成度を評価する。

獨協医科大学病院（責任基幹施設）研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全で質の高い周術期医療を提供し国民の健康と福祉の増進に寄与することのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標1（基本知識）

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
 - a) 自律神経系
 - b) 中枢神経系
 - c) 神経筋接合部
 - d) 呼吸
 - e) 循環
 - f) 肝臓
 - g) 腎臓
 - h) 酸塩基平衡，電解質
 - i) 栄養
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。
 - a) 吸入麻酔薬
 - b) 静脈麻酔薬

- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる
 - a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
 - b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
 - c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
 - d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
 - e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 - f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
 - a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 成人心臓手術
 - e) 血管外科
 - f) 小児外科
 - g) 小児心臓外科
 - h) 高齢者の手術
 - i) 脳神経外科
 - j) 整形外科
 - k) 外傷患者
 - l) 泌尿器科
 - m) 産婦人科
 - n) 眼科
 - o) 耳鼻咽喉科
 - p) レーザー手術
 - q) 口腔外科

- r) 臓器移植
- s) 手術室以外での麻酔
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。
- 8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。
- 9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標 2 (診療技術)

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。
 - a) 血管確保・血液採取
 - b) 気道管理
 - c) モニタリング
 - d) 治療手技
 - e) 心肺蘇生法
 - f) 麻酔器点検および使用
 - g) 脊髄くも膜下麻酔
 - h) 鎮痛法および鎮静薬
 - i) 感染予防

目標 3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 (医療倫理，医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療, ペインクリニックの十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の特種麻酔を担当医として経験する。

- ・小児 (6 歳未満) の麻酔
- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

獨協医科大学日光医療センター（基幹研修施設） 研修カリキュラム到達目標

① 般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 別目標

目標 1（基本知識）

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
 - a) 自律神経系
 - b) 中枢神経系
 - c) 神経筋接合部
 - d) 呼吸
 - e) 循環
 - f) 肝臓
 - g) 腎臓
 - h) 酸塩基平衡，電解質
 - i) 栄養
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。
 - a) 吸入麻酔薬
 - b) 静脈麻酔薬

- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち，実践できる
 - a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
 - b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
 - c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
 - d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
 - e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 - f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
 - a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 成人心臓手術
 - e) 血管外科
 - f) 小児外科
 - g) 小児心臓外科（動脈管閉鎖手術のみ）
 - h) 高齢者の手術
 - i) 脳神経外科
 - j) 整形外科
 - k) 外傷患者
 - l) 泌尿器科
 - m) 産婦人科
 - n) 眼科
 - o) 耳鼻咽喉科
 - p) レーザー手術
 - q) 臓器移植

r) 手術室以外での麻酔

6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。

7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。各科と連携し集中治療室での治療の充実に寄与することができる。

8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。

9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標 2 (診療技術)

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。

a) 血管確保・血液採取

b) 気道管理

c) モニタリング

d) 治療手技

e) 心肺蘇生法

f) 麻酔器点検および使用

g) 脊髄くも膜下麻酔

h) 鎮痛法および鎮静薬

i) 感染予防

目標 3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。

2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 (医療倫理，医療安全)

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療

安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

- ・小児 (6 歳未満) の麻酔
- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

那須赤十字病院（基幹研修施設） 研修カリキュラム到達目標

①一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる、麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②個別目標

目標 1（基本知識）

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し、臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
 - a) 自律神経系
 - b) 中枢神経系
 - c) 神経筋接合部
 - d) 呼吸
 - e) 循環
 - f) 肝臓
 - g) 腎臓
 - h) 酸塩基平衡，電解質
 - i) 栄養
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上の効用と影響について理解している。
 - a) 吸入麻酔薬
 - b) 静脈麻酔薬

- c) オピオイド
- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる
 - a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
 - b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
 - c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
 - d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
 - e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 - f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
 - a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 成人心臓手術
 - e) 血管外科
 - f) 小児外科
 - g) 小児心臓外科
 - h) 高齢者の手術
 - i) 脳神経外科
 - j) 整形外科
 - k) 外傷患者
 - l) 泌尿器科
 - m) 産婦人科
 - n) 眼科
 - o) 耳鼻咽喉科
 - p) レーザー手術
 - q) 口腔外科

- r) 臓器移植
- s) 手術室以外での麻酔
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。
- 8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。
- 9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標 2 (診療技術)

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。
 - a) 血管確保・血液採取
 - b) 気道管理
 - c) モニタリング
 - d) 治療手技
 - e) 心肺蘇生法
 - f) 麻酔器点検および使用
 - g) 脊髄くも膜下麻酔
 - h) 鎮痛法および鎮静薬
 - i) 感染予防

目標 3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 (医療倫理，医療安全)

医師として診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

④ 経験目標

研修期間中に手術麻酔, 集中治療の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

- ・小児 (6 歳未満) の麻酔
- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

佐野厚生総合病院（基幹研修施設） 研修カリキュラム到達目標

① 一般目標

安全かつ安心な周術期医療の提供といった国民のニーズに応えることのできる，麻酔科およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の4つの資質を修得する。

- 1) 十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技量
- 2) 刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学を則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 個別目標

目標 1（基本知識）

麻酔科診療に必要な下記知識を習得し，臨床応用できる。具体的には公益法人日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の学習ガイドラインに準拠する。

- 1) 総論：
 - a) 麻酔科医の役割と社会的な意義，医学や麻酔の歴史について理解している。
 - b) 麻酔の安全と質の向上：麻酔の合併症発生率，リスクの種類，安全指針，医療の質向上に向けた活動などについて理解している。手術室の安全管理，環境整備について理解し，実践できる。
- 2) 生理学：下記の臓器の生理・病態生理，機能，評価・検査，麻酔の影響などについて理解している。
 - a) 自律神経系
 - b) 中枢神経系
 - c) 神経筋接合部
 - d) 呼吸
 - e) 循環
 - f) 肝臓
 - g) 腎臓
 - h) 酸塩基平衡，電解質
 - i) 栄養
- 3) 薬理学：薬力学，薬物動態を理解している。特に下記の麻酔関連薬物について作用機序，代謝，臨床上的効用と影響について理解している。
 - a) 吸入麻酔薬 b) 静脈麻酔薬
 - c) オピオイド

- d) 筋弛緩薬
- e) 局所麻酔薬
- 4) 麻酔管理総論：麻酔に必要な知識を持ち、実践できる
 - a) 術前評価：麻酔のリスクを増す患者因子の評価，術前に必要な検査，術前に行うべき合併症対策について理解している。
 - b) 麻酔器，モニター：麻酔器・麻酔回路の構造，点検方法，トラブルシューティング，モニター機器の原理，適応，モニターによる生体機能の評価，について理解し，実践ができる。
 - c) 気道管理：気道の解剖，評価，様々な気道管理の方法，困難症例への対応などを理解し，実践できる。
 - d) 輸液・輸血療法：種類，適応，保存，合併症，緊急時対応などについて理解し，実践ができる。
 - e) 脊髄くも膜下麻酔，硬膜外麻酔：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる
 - f) 神経ブロック：適応，禁忌，関連する部所の解剖，手順，作用機序，合併症について理解し，実践ができる。
- 5) 麻酔管理各論：下記の様々な科の手術に対する麻酔方法について，それぞれの特性と留意すべきことを理解し，実践ができる。
 - a) 腹部外科
 - b) 腹腔鏡下手術
 - c) 胸部外科
 - d) 成人心臓手術
 - e) 血管外科
 - f) 小児外科
 - g) 小児心臓外科
 - h) 高齢者の手術
 - i) 脳神経外科
 - j) 整形外科
 - k) 外傷患者
 - l) 泌尿器科
 - m) 産婦人科
 - n) 眼科
 - o) 耳鼻咽喉科
 - p) レーザー手術
 - q) 口腔外科
 - r) 臓器移植

- s) 手術室以外での麻酔
- 6) 術後管理：術後回復とその評価，術後の合併症とその対応に関して理解し，実践できる。
- 7) 集中治療：成人・小児の集中治療を要する疾患の診断と集中治療について理解し，実践できる。
- 8) 救急医療：救急医療の代表的な病態とその評価，治療について理解し，実践できる。それぞれの患者にあった蘇生法を理解し，実践できる。AHA-ACLS，またはAHA-PALS プロバイダーコースを受講し，プロバイダーカードを取得している。
- 9) ペイン：周術期の急性痛・慢性痛の機序，治療について理解し，実践できる。

目標 2 (診療技術)

麻酔科診療に必要な下記基本手技に習熟し，臨床応用できる。具体的には日本麻酔科学会の定める「麻酔科医のための教育ガイドライン」の中の基本手技ガイドラインに準拠する。

- 1) 基本手技ガイドラインにある下記のそれぞれの基本手技について，定められたコース目標に到達している。
 - a) 血管確保・血液採取
 - b) 気道管理
 - c) モニタリング
 - d) 治療手技
 - e) 心肺蘇生法
 - f) 麻酔器点検および使用
 - g) 脊髄くも膜下麻酔
 - h) 鎮痛法および鎮静薬
 - i) 感染予防

目標 3 (マネジメント)

麻酔科専門医として必要な臨床現場での役割を実践することで，患者の命を助けることができる。

- 1) 周術期などの予期せぬ緊急事象に対して，適切に対処できる技術，判断能力を持っている。
- 2) 医療チームのリーダーとして，他科の医師，他職種を巻き込み，統率力をもって，周術期の刻々と変化する事象に対応をすることができる。

目標 4 (医療倫理，医療安全)

医師として診療を行う上で，医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につける。医療

安全についての理解を深める。

- 1) 指導担当する医師とともに臨床研修環境の中で、協調して麻酔科診療を行うことができる。
- 2) 他科の医師、コメディカルなどと協力・協働して、チーム医療を実践することができる。
- 3) 麻酔科診療において、適切な態度で患者に接し、麻酔方法や周術期合併症をわかりやすく説明し、インフォームドコンセントを得ることができる。
- 4) 初期研修医や他の医師、コメディカル、実習中の学生などに対し、適切な態度で接しながら、麻酔科診療の教育をすることができる。

目標 5 (生涯教育)

医療・医学の進歩に則して、生涯を通じて自己の能力を研鑽する向上心を醸成する。

- 1) 学習ガイドラインの中の麻酔における研究計画と統計学の項目に準拠して、EBM, 統計, 研究計画などについて理解している。
- 2) 院内のカンファレンスや抄読会, 外部のセミナーやカンファレンスなどに出席し, 積極的に討論に参加できる。
- 3) 学術集会や学術出版物に, 症例報告や研究成果の発表をすることができる。
- 4) 臨床上の疑問に関して, 指導医に尋ねることはもとより, 自ら文献・資料などを用いて問題解決を行うことができる。

③ 経験目標

研修期間中に手術麻酔, (集中治療, 救急医療) の十分な臨床経験を積む。通常の全身麻酔・硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔・神経ブロックの症例経験に加え, 下記の所定の件数の特殊麻酔を担当医として経験する。

- ・小児 (6 歳未満) の麻酔
- ・帝王切開術の麻酔
- ・心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)
- ・胸部外科手術の麻酔
- ・脳神経外科手術の麻酔

7. 到達目標と評価項目

各専攻医に対し，以下の表を用いて，研修管理委員会において，到達度を評価する。

対象項目は斜線で示している

経験目標は経験した症例数を記入する。

病院名：獨協医科大学病院

評価項目		1年目	2年目	3年目	4年目
一般目標					
	1) 十分な専門知識と技量				
	2) 臨床的判断能力、問題解決能力				
	3) 医の倫理				
	4) 研鑽を継続する向上心				
個別目標					
	目標1 (基本知識)				
	1) 総論				
	2) 生理学				
	3) 薬理学				
	4) 麻酔管理総論				
	a) 術前評価				
	b) 麻酔器、モニター				
	c) 気道管理				
	d) 輸液・輸血療法				
	e) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔				
	f) 神経ブロック				
	5) 麻酔管理各論				
	a) 腹部外科				
	b) 腹腔鏡下手術				
	c) 胸部外科				
	d) 成人心臓手術				
	e) 血管外科				
	f) 小児外科				
	g) 小児心臓外科				
	h) 高齢者の手術				
	i) 脳神経外科				
	j) 整形外科				
	k) 外傷患者				
	l) 泌尿器科				
	m) 産婦人科				
	n) 眼科				
	o) 耳鼻咽喉科				
	p) レーザー手術				
	q) 口腔外科				
	r) 臓器移植				
	s) 手術室以外での麻酔				
	6) 術後管理				
	7) 集中治療				
	8) 救急医療				
	9) ペイン				

7. 到達目標と評価項目

各専攻医に対し，以下の表を用いて，研修管理委員会において，到達度を評価する．

対象項目は斜線で示している

経験目標は経験した症例数を記入する．

病院名：獨協医科大学日光医療センター

評価項目		1年目	2年目	3年目	4年目
一般目標					
	1) 十分な専門知識と技量				
	2) 臨床的判断能力、問題解決能力				
	3) 医の倫理				
	4) 研鑽を継続する向上心				
個別目標					
	目標1 (基本知識)				
	1) 総論				
	2) 生理学				
	3) 薬理学				
	4) 麻酔管理総論				
	a) 術前評価				
	b) 麻酔器、モニター				
	c) 気道管理				
	d) 輸液・輸血療法				
	e) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔				
	f) 神経ブロック				
	5) 麻酔管理各論				
	a) 腹部外科				
	b) 腹腔鏡下手術				
	c) 胸部外科				
	d) 成人心臓手術				
	e) 血管外科				
	f) 小児外科				
	g) 小児心臓外科				
	h) 高齢者の手術				
	i) 脳神経外科				
	j) 整形外科				
	k) 外傷患者				
	l) 泌尿器科				
	m) 産婦人科				
	n) 眼科				
	o) 耳鼻咽喉科				
	p) レーザー手術				
	q) 口腔外科				
	r) 臓器移植				
	s) 手術室以外での麻酔				
	6) 術後管理				
	7) 集中治療				
	8) 救急医療				
	9) ペイン				

7. 到達目標と評価項目

各専攻医に対し，以下の表を用いて，研修管理委員会において，到達度を評価する。

対象項目は斜線で示している

経験目標は経験した症例数を記入する。

病院名：那須赤十字病院

評価項目		1年目	2年目	3年目	4年目
一般目標					
	1) 十分な専門知識と技量				
	2) 臨床的判断能力、問題解決能力				
	3) 医の倫理				
	4) 研鑽を継続する向上心				
個別目標					
	目標1 (基本知識)				
	1) 総論				
	2) 生理学				
	3) 薬理学				
	4) 麻酔管理総論				
	a) 術前評価				
	b) 麻酔器、モニター				
	c) 気道管理				
	d) 輸液・輸血療法				
	e) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔				
	f) 神経ブロック				
	5) 麻酔管理各論				
	a) 腹部外科				
	b) 腹腔鏡下手術				
	c) 胸部外科				
	d) 成人心臓手術				
	e) 血管外科				
	f) 小児外科				
	g) 小児心臓外科				
	h) 高齢者の手術				
	i) 脳神経外科				
	j) 整形外科				
	k) 外傷患者				
	l) 泌尿器科				
	m) 産婦人科				
	n) 眼科				
	o) 耳鼻咽喉科				
	p) レーザー手術				
	q) 口腔外科				
	r) 臓器移植				
	s) 手術室以外での麻酔				
	6) 術後管理				
	7) 集中治療				
	8) 救急医療				
	9) ペイン				

7. 到達目標と評価項目

各専攻医に対し，以下の表を用いて，研修管理委員会において，到達度を評価する。

対象項目は斜線で示している

経験目標は経験した症例数を記入する。

病院名：佐野厚生総合病院

評価項目		1年目	2年目	3年目	4年目
一般目標					
	1) 十分な専門知識と技量				
	2) 臨床的判断能力、問題解決能力				
	3) 医の倫理				
	4) 研鑽を継続する向上心				
個別目標					
	目標1 (基本知識)				
	1) 総論				
	2) 生理学				
	3) 薬理学				
	4) 麻酔管理総論				
	a) 術前評価				
	b) 麻酔器、モニター				
	c) 気道管理				
	d) 輸液・輸血療法				
	e) 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔				
	f) 神経ブロック				
	5) 麻酔管理各論				
	a) 腹部外科				
	b) 腹腔鏡下手術				
	c) 胸部外科				
	d) 成人心臓手術				
	e) 血管外科				
	f) 小児外科				
	g) 小児心臓外科				
	h) 高齢者の手術				
	i) 脳神経外科				
	j) 整形外科				
	k) 外傷患者				
	l) 泌尿器科				
	m) 産婦人科				
	n) 眼科				
	o) 耳鼻咽喉科				
	p) レーザー手術				
	q) 口腔外科				
	r) 臓器移植				
	s) 手術室以外での麻酔				
	6) 術後管理				
	7) 集中治療				
	8) 救急医療				
	9) ペイン				